

課題戯曲

『藤十郎の恋』

元禄半ば。藤十郎のもとに届けられた近松門左衛門の新作狂言は、姦通事件を題材にしたもので、藤十郎は密夫の実芸を体得できず悩んでいる。藤十郎は、貞女と名高い未亡人に秘めた恋の打ち明け話をする。迫る藤十郎に、今の言葉は本心かと問うたその顔を見届けた藤十郎。芝居は評判を呼び、わんさと人の詰め掛ける初日の幕が開く直前、今度の藤十郎の工夫は茶屋の女房に偽の恋を仕掛けて得たものと噂がたち…

『敵討以上』

自身の小説『恩讐の彼方に』を戯曲化。青の洞門を開削した実在の僧・禪海をモチーフとしている。浅草の旗本で働いていた市九郎は、主人の愛妾と通じて主人を殺した後江戸を出奔。峠で旅人を殺しながら日々の生活を営んでいたが、自らの罪業に恐れをなし、出家して「了海」と名乗る。了海は、全国行脚の旅の最中に、難所である鎖渡して事故により多くの人が亡くなっていると聞き、その難所の岩場を掘削して、事故で命を落とす者を救おうと誓願を立て、二十年近く掘削し続ける。そこに、かつて殺した主人の息子・実之助が仇討ちに現れるが…

小説家・劇作家。香川県高松の生まれ。経済的に苦しみながら、勉学に励み、第一高等学校(現代の東京大学教養部)文学科に入学。親友となる芥川龍之介らと出会う。卒業後は、時事新報社に入社。1923(大正12)年に私費で雑誌『文藝春秋』を創刊。1926(大正15)年、日本文藝家協会を組織。1935(昭和10)年には、芥川賞、直木賞を設立する。太平洋戦争中、文芸統後運動を推進、国民文学報国会の理事に就任している。戦後、公職追放の指令を受ける。1948(昭和23)年、死去。麻雀や競馬を愛好したことで知られる。

菊池 寛

Kan Kikuchi (1888 - 1948)

参考戯曲『父帰る』『屋上の狂人』、小説『藤十郎の恋』『恩讐の彼方に』他

8月16日 レクチャー講師/9月14日 シンポジウムパネラー

片山宏行(菊池寛研究)

1955(昭和30)年、北海道生まれ。青山学院大学文学部日本文学科卒。1982年神戸山手女子短期大学国文学科赴任。1991年、青山学院大学文学部日本文学科赴任、現在同学科教授。日本近代文学専攻。主に菊池寛の文学・文業について研究。著書に『菊池寛の航跡<初期文学精神の展開>』(1997・9、和泉書院)、『菊池寛のうしろ影』(2000・11、未知谷)、編著『真珠夫人<注解・考説>』(2004・8、翰林書房)

9月15日 シンポジウムパネラー

大場正昭(演出家)

昭和25年静岡県生れ。早稲田大学卒業。劇団新派文芸部。日本演劇協会会員。◆新派の演出は、川口松太郎・北条秀司作品など多数。「みつわ会」の久保田万太郎作品連続上演の演出でも評価が高い。◆歌舞伎では、大佛次郎『たぬき』、菊池寛『恩讐の彼方に』、山本周五郎『泥棒と若殿』、井上ひさし『東慶寺花だより』など、新歌舞伎や新作を演出。

<お申込み方法> ※あらかじめご予約ください。

◎申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。◎メールでご予約の際は、件名を「チケット予約」とし、必要事項をご明記の上お申し込みください。予約完了メールが届いた時点で予約完了となります。

<お申込み・お問合せ先> 一般社団法人日本演出者協会(担当:川口)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎3F TEL:03-5909-3074 FAX:03-5909-3075 携帯:090-1016-7092

専用メールアドレス: kindaigikyoku@yahoo.co.jp

※受付開始、開場は開演の30分前です。

※受付は開演の5分前までにお済ませください。5分前を過ぎますとご予約を頂いてもお席をご用意できない場合があります。



未生文庫

JR・東京メトロ
「駒込駅」徒歩約5分
東京都豊島区駒込3-3-4



芸能花伝舎

東京メトロ丸ノ内線「西新宿」出口2より徒歩7分
新宿区西新宿6-12-30 TEL:03-5909-3066

参加申込み票

氏名	フリガナ	性別	男・女	電話:								
ご住所	〒	FAX:		E-mail:								
研修見学 (〇で囲む)	8/16	8/21	8/26	9/2	9/9	9/11	9/13	リーディング シンポジウム	9/14 (日)	枚	9/15 (月・祝)	枚